

アジアの民族服に関する被服造形学的研究

—文化学園服飾博物館所蔵品の調査(2)—

荒井 やよい* 田村 照子**

A Study on Clothing Construction of Ethnic Costumes in Asia

—An Analysis of the Collection of Bunka Gakuen Costume Museum (2)—

Yayoi Arai and Teruko Tamura

要 旨 文化学園服飾博物館所蔵のアジアの民族服について実物資料の継続調査を行った。パンツとの上下組合せ服3組①インドの上衣、ケリヤ、下衣、シャルワール、②韓国の上衣、ジョグサム、下衣、バジ、③シリアの上衣、ドレス、下衣、シャルワール、各資料の形状、パターン、裁ち合わせ、縫製方法、装飾技法について調査し、試作服の製作並びに着装実験によって上肢、下肢の運動機能性を評価した。各資料の素材はインドとシリアが綿、韓国は麻。布幅は45 cm から80 cm であった。今回の調査資料で布幅を最大限生かした、直線裁ちのものはインドの下衣、シャルワール、ほぼ直線裁ちのものは韓国の下衣、バジであった。他も裁断での無駄のない工夫がされている。インド、シリアは全て手縫い、韓国はミシン縫い。シリアの刺繍は緻密で繊細。下衣は中心部につけられた大きな台形襠、大小の楔型襠等により股上でたっぶりのゆとりが確保され、機能性とデザイン性を高め、上衣は水平袖で、側拳の形態構成、脇でのゆとり等が運動量となり手は挙げ易い。アジアの民族服は平面的で許容範囲の広い形態が多く、襠を活用し運動機能性を高め、日常の姿勢、動作に対応させている事が明確となった。

キーワード 民族服 (Ethnic costumes) アジア (Asia) 裁ち合わせ (Cutting)

I はじめに

近代化、欧米化に伴う生活様式の変化により、各地の伝統ある民族服も都市部から、また日常から姿を消し、伝統技術は低下、さらには技術の継承者が育たず消滅傾向にある。現存する民族服飾の収集、研究、保存、継承は、民族服の美しさや手仕事の見事さに魅せられ、消滅の危惧を感じた専門家および収集家等により進められている。パンツ、シャルワールについても、10年をかけ実地調査、収集した研究^{1)~6)}がある。本研究は前報に引き続き、文化学園服

飾博物館所蔵品の分析調査を行うものである。本報では、インド、韓国、シリアのアジア3カ国より上下組み合わせの民族服を選び、素材、形状、パターン、裁ち合わせ、縫製方法、装飾技法、機能性などについて被服造形学の視点からの考察を試みた。対象とした民族服は襠の形状の異なるパンツ3点、及びパンツに組み合わされた貫頭衣型ドレス1点、前開型上衣1点の計5点で、各資料と同パターンの試作服を製作し、着装実験により四肢の運動機能性について検討した。

II 研究方法

1 調査対象

調査した実物資料は、文化学園服飾博物館収

* 本学教授 被服構成学

** 本学教授 被服衛生学

蔵品データベースを用いてアジアの民族服の中より襦が使用され、上衣がセットになっているパンツ3点を選んだ。資料A1：インド・上衣・ケリヤ（1970-80年代）、資料A2：インド・パンツ・シャルワール（1970-80年代）、資料B1：韓国・赤衫・ジョグサム（1940年代）資料B2：韓国・袴・バジ（1910-40年代）、資料C1：シリア・ドレス（1930年代）、資料C2：シリア・パンツ・シャルワール（1930年代）の6点である。調査は素材、形状、パターン、裁ち合わせ、縫製法、装飾技法について行った。なお資料A1：インド・上衣・ケリヤについては前報⁷⁾で報告した。

1) 素材

資料の織組織、糸密度（たて×よこ本/cm）はマイクロスコープにて撮影した拡大写真より観察、計測した。厚さ（mm）の測定にはスプリングマイクロメーターを使用した。重量は衣服の全体重量を計測、素材（材質）については博物館作成のデータを使用した。

2) 形状、パターン

各資料の形態、構成、特徴を観察した後、その構成パターンの分析を行った。資料全体の外形を把握するため、テープメジャーを使用し、上衣は着丈、袖丈、胸幅、裾幅の4箇所を、パンツは胴回り、パンツ丈、足首回りの3箇所を計測。次に、各構成パーツのパターン採取のため、パーツを平面に付置き、その形状を写し取ると共に要所を採寸した。次に資料の構成線を詳細に計測記録し、その数値で作図を起こし、パターン作製を行った。左右の寸法が異なる場合は寸法調整を行った。布目方向は耳を確認し決定した。

3) 裁ち合わせ

資料中の両耳を含むパーツより、使用された布の布幅を計測した。その布幅上に、実物資料から採取した寸法で作製したパターンを出来るだけ近接した状態に付置したものを裁ち合わせ図とした。

4) 縫製方法、装飾技法

資料の中に使用されている全ての縫製部分並

びに装飾部分を対象とし、縫製方法、装飾技法を観察、調査し記録をとった。

2 試作服による運動機能性の評価

1) 試作服の製作

各資料の運動機能性を評価するため、綿100%の線入りシーチング及びカラーシーチングを用い、実物大の試作服を製作した。

2) 着装実験

被検者に試作服を着装してもらい、上衣は上肢側拳、前拳、上拳、下衣は下肢そんきょ、片膝立て、あぐらの一連の動作、姿勢での着装感、着くずれ等を観察した。被検者は成人男子（54歳、身長175 cm、体重72 kg）、成人女子（23歳、身長164 cm、体重48 kg）である。

III 結果及び考察

1 素材

A1～C2までの資料の諸元を表1に示す。

1) 資料A1 インドの上衣ケリヤ（図1）、資料A2 インドの下衣シャルワール（図1）は綿100%の平織である。たて、よこ共太目の糸2本セットでざっくり織られている。布幅は58 cm、厚地であり、その衣服重量は上衣702 g、下衣812 g、上下着用すると1514 gになる。調査資料最大の重量であった。厚地でゆとりの多い衣服は直射日光を遮蔽し外部からの熱の進入を防ぐとともに体に密着せず涼しい。厚地の衣服は外気温が体温より高い場合、伝導・対流による熱の侵入を防ぐ役割を果たすと考えられる。インド（ニューデリー）の平均気温（表2）は14.2℃（1月）～33.5℃（6月）、最高気温は40℃（5月）に達する。湿度は30～75%であり夏季は高温多湿である。

2) 資料B1 韓国の上衣ジョグサム（図2）、資料B2 韓国の下衣バジ（図2）は麻100%平織である。麻は通気性、吸湿性に優れ、麻特有の布地の張りは体と衣服の間に空気層を作り体に密着せず涼しい、高温多湿の韓国の夏に適する。布幅は45 cm。下衣の脇布が反物の幅そのまま生かして使用されており、両端に耳を確認



図1 資料 A1 インド, ケリヤ 資料 A2 インド, シャルワール (文化学園服飾博物館蔵)



図2 資料 B1 韓国, ジョグサム 資料 B2 韓国, バジ (文化学園服飾博物館蔵)



図3 資料 C1 シリア, ドレス 資料 C2 シリア, シャルワール (文化学園服飾博物館蔵)

表1 資料の諸元

資料	国	服種名称	素材(%)	織組織	糸密度 (本/cm) たて×よこ	厚さ (mm)	布幅 (cm)	使用量 (cm)	衣服重量 (g)
A1	インド	上衣 ケリヤ	綿 100	平織	21×21	0.91	58	440	702
A2		パンツ シャルワール	綿 100	平織	21×21	0.89	58	490	812
B1	韓国	赤衫 ジョグサム	麻 100	平織	18×16	0.4	45	410	173
B2		袴 バジ	麻 100	平織	18×20	0.4	45	500	237
C1	シリア	ドレス	綿 100	平織	31×30	0.33	表布80 裾布80	表布500 裾布120	591
C2		パンツ シャルワール	綿 100	平織	26×25	0.39	表布74 裾布80	表布170 裾布 60	268
参考	日本	長着 浴衣	綿 100	平織	28×27	0.37	36	1150	497

できた。上衣は両端耳使用のパーツが無い
ため、下衣の布幅と揃え45 cm とした。

3) 資料 C1 シリアの上衣ドレス (図 3)、
資料 C2 シリアの下衣シャルワール (図 3) は
綿100%の平織である。綿は吸湿性、耐久性に
優れ肌ざわりもよく扱い易い。測定結果より、
厚さの異なる 3 種の綿地を使用していること
が分かった。ドレス地より厚いパンツ地、更に
厚い裾布と下方の布地ほど厚地を使用している。
上衣ドレスの身頃の分量が多いため、薄く
軽い方が望ましく、またタックの多いドレスの
デザインでは薄地の方がタック縫いがし易く、
同時に着心地も良いと考えられる。下衣のパン
ツは動作での負荷が多い点上衣より地厚で強
度のある事が要求される。裾布はさらに厚地で
あり、刺繍が刺し易く刺し上がりも安定する。
刺繍部分を再利用する等の点からも厚地でしっ
かりした布地が使用されたと思われる。また裾
布には歩行時の摩擦抵抗がより大きい厚地が適

していると考えられる。布幅はドレス80 cm、
パンツ74 cm、裾布80 cm であった。シリアの
気候は、夏は猛暑であり、白地木綿のゆったり
としたドレスは最適であろう。民族服は自然と
深く関わりをもつ生活の中で、自然から得られ
る動植物繊維を素材とし織られた布が使われ、
気候風土、労働作業、生活様式に合ったデザイ
ンの衣服構成に適合した素材が使用されている
ことが確認できた。

2 形状, パターン, 裁ち合わせ, 縫製方 法, 装飾技法

1) 資料 A1 インド; 上衣・ケリヤ (図 1) [形状]

ケリヤはインド、グジャラード州アヒル族の
男性の上衣である。資料 A2 のシャルワールと
組み合わせて着用する。ハイウエストでの切り
替え、裾布 (ペプラム) の細かなひだ飾りが特
徴的であるが、この裾布の裾回りは315 cm、
下衣胴回り336 cm のたっぷりしたギャザー量

表2 資料該当国首都の気温と気候

気温 (°C)	インド・ニューデリー	韓国・ソウル	シリア・ダマスカス	日本・東京
最高 (月)	33.5(6)	25.2(8)	26.6(7)	27.1(8)
最低 (月)	14.2(1)	-3.3(1)	6.2(1)	5.2(1)
気候	熱帯モンスーン気候 夏高温多湿 夏多雨, 冬乾燥 北部穏やか, 南部亜熱帯	大陸性気候 夏高温多湿 冬寒冷乾燥 雨季 6月~8月	乾燥, 夏猛暑, 冬温和 沿岸温暖湿潤 平野降水量少	温帯気候 温暖湿潤 夏湿冬乾

を十分カバーするよう構成されている。上下で着装すると量感がある。祭礼用は刺繍，ミラーワークが施され華やかさを増す。これは装飾効果のみでなく魔除けの役目も果たす。

2) 資料 A2 インド；パンツ・シャルワール (図 4)

〔形状〕

シャルワールは，東はネパールから，西はアフリカまで，イラン，トルコ，パキスタン，アフガニスタン，東インド，シルクロードを含む広範な地域にわたって着用されているゆるやかな脚衣で，足首で絞る裾絞り型である。イスラム文化圏の諸民族の日常着として使用されている。調査資料は男性用パンツで，パンツのウエストラインはまっすぐで胴回り336 cm，腰幅は150 cm 以上ある。一方，足首は砂塵よけと機能性のため細くなっている。ウエストに紐を通し締めて着用すると，ゆったりとしたドレープが腰回りに構成される。ドレープは運動量にもなり，どのような座姿勢にも対応し，さらに十分なゆとりにより，布地は体に密着せず涼しく着られる。許容範囲の広いフリーサイズであり合理的でもある。上下二部式は騎馬民族の遊牧生活に適応する必然性が生みだした服装様式であり，下衣は股に襠を入れ機能性を持たせている。

〔パターン，裁ち合わせ，縫製方法，装飾技法〕

裁ち合わせ図を図 4 に示す。インド，シャルワールは右前後脇布，左前後脇布，前右襠，前左襠，後ろ右襠，後ろ左襠，右裾見返し，左裾見返しの 8 パーツからなる。使用量は 58 cm 幅×490 cm で，脇布は布幅をそのまま生かして縦半分にしたみ，脇の縫い目を省いたパターンになっている。中心部の襠は前後のパターンを交互に配置すると無駄のない裁ち合わせが出来る。よく考えられたパターンの形状である。腰幅は布幅の約 3 倍の 168 cm と，平面で見るとかなり長く，腰回りは布幅のはば 6 倍 336 cm にもなる，ウエスト寸法が 90 cm のモデルで 246 cm のギャザー分量となる。縫い代は耳端から 1 cm でタテの縫い目が，中表に合わせ

表 4 資料の概要

資 料	A2	B1	B2	C1	C2
国 名	インド	韓 国		シリア	
部 族	アヒル族				
地 域	南アジア	東アジア		西アジア	
服 種	パンツ男子	赤衫男子	袴男子	ドレス女子	パンツ女子
名 称	シャルワール	ジョグサム	バジ	ドレス	シャルワール
材 質	綿(平織)	麻(平織)	麻(平織)	綿(平織)	綿(平織)
年 代	1970~80年	1910~40年	1910~40年	1930年	1930年
形 態	寛裕型 縮括り型	前期型	寛裕型 裾を括り着装	貫頭型	縮括り型
特 徴	ウエスト ひも ギャザー	ウエスト ひも 水平軸	ウエスト ひも	スタンド カラー 前短冊あき タック 水平軸	ウエスト ひも ギャザー
襠の形状	台形襠	—	大小楔形襠	—	扇形襠
寸 法	胴回り326 パンツ丈97 足首回り20	着丈56.7 裾72.5 裾幅56.5	胴回り120 丈116.5 足首回り56	着丈138 裾76 裾幅128	胴回り134 パンツ丈80 足首回り32
パーツ数	8	15	7	20	9
裁ち合わせ	直線裁ち	ほぼ 直線裁ち	ほぼ 直線裁ち	脇身頃，袖 に工夫あり	扇形襠に 工夫あり
使用量	58 cm 幅 490 cm	45 cm 幅 410 cm	45 cm 幅 500 cm	(表布) 80 cm 幅 500 cm (裾布) 80 cm 幅 120 cm	(表布) 74 cm 幅 170 cm (裾布) 80 cm 幅 60 cm
縫 製	手縫い	ミシン縫い 滑脱防止縫い	ミシン縫い 滑脱防止縫い	手縫い	手縫い
装 飾	ファゴ ティン グ 刺繍	—	—	タック 裾に刺繍 オヤレース	裾に刺繍 オヤレース

れ並み縫いで縫い合わされている。素材は厚地の為，手縫い糸はやや太めで丈夫そうな糸が使われている。ウエストラインは表面側に折り返され，3.5 cm 幅の三つ折りにしてかがり縫い，前後中心線の縫い代は内側に三角に折り耳端は押え縫いをし，紐を通しやすく，また紐を引きやすくしている。脇布裾は耳側たて方向に 15 cm，裁端側よこ方向に 18 cm で裏面側に折り返され三角形の見返しとなる。その折山線の裾から 8 cm までをあきとして着脱しやすいうように，ボタンとコードループを付け留める。あきより上 15 cm は飾りつなぎの接合縫(はぎあわせぬい)ファゴティング・ステッチ (Fagoting stitch) が施されている。丈夫さと，装飾を兼ねた手芸的装飾技法である。足首の内側で見えにくい部分ではあるが，あぐらをかけば見える。さりげない美意識と，手仕事のこだわり

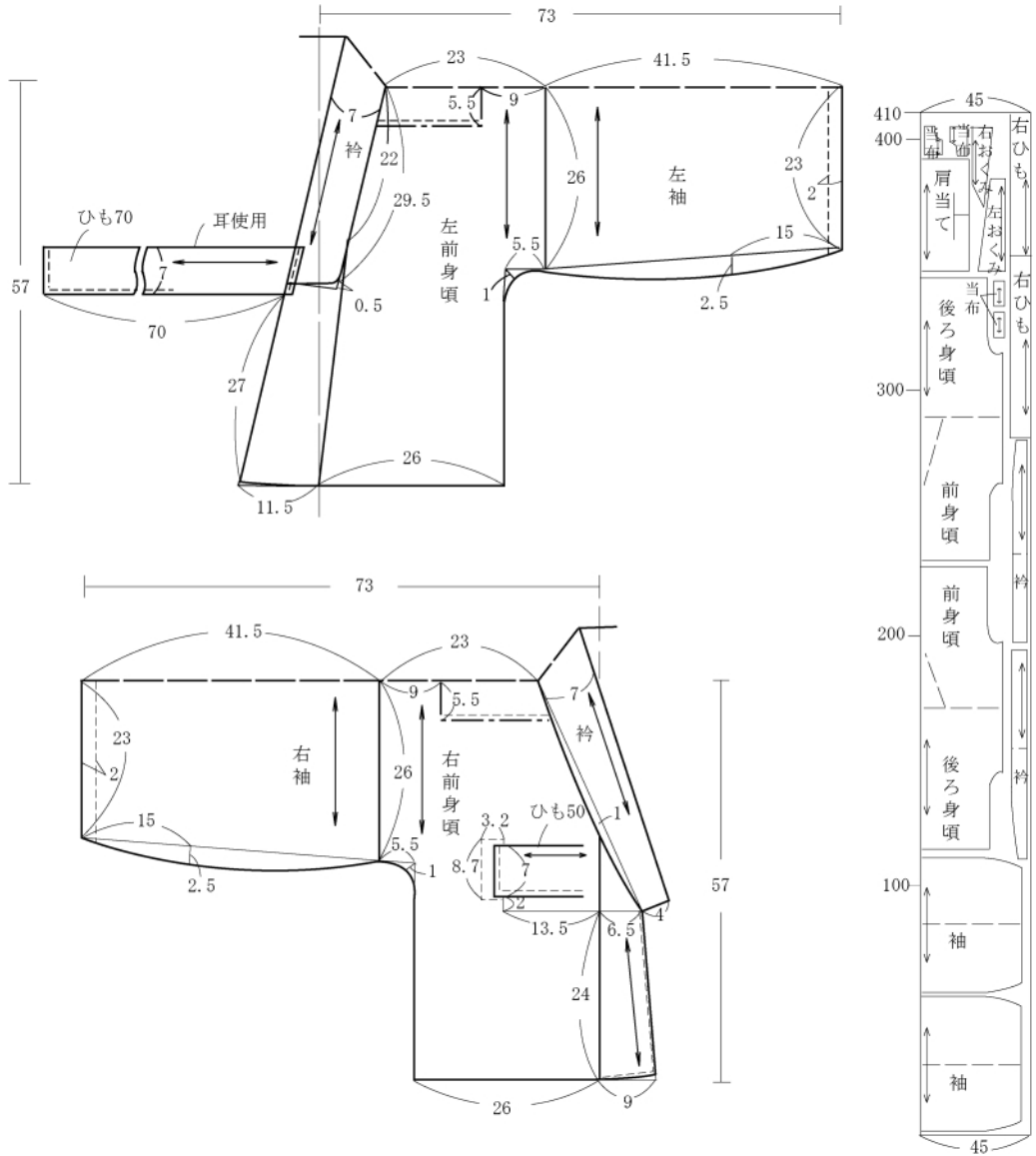


図5-2 韓国，ジョグサムの作図，裁ち合わせ図

表5 韓国，ジョグサムの縫製

B1	韓国赤衫 ジョグサム	<p>—ミシン縫い—</p> <ul style="list-style-type: none"> • 後ろ中心縫い=0.3の縫い代でミシン縫い縫い代割る • 身頃に肩当て，袖ぐりに当て布つけ=身頃裏面に肩当て後ろ身頃裏面に袖ぐり当て布をミシンで止める。 • 袖つけ=身頃縫い代0.5折り袖と合せて0.3にミシン縫い縫い代割る • 袖下～脇縫い，袖口縫い=袖下～脇を外表に合せミシン縫い縫い代を整理し中表合せ第2ミシンをかけ袋縫い出来上がり幅0.35で細い袖口0.5，1.6の三つ折りにステッチ幅1.5の三つ折り縫い • 前身頃におくみつけ=前身頃おくみは0.5折り0.3にミシン縫い縫い代を前身頃に片返し0.2に押えミシンおくみ前端折りミシン • 裾上げ=三つ折り縫い • 衿作り，衿つけ=衿外回りミシン縫い。表衿を身頃につけミシン縫い裏衿はまつり縫い • ひも作り，当て布つけ，ひもつけ=ひも裁ち端は三つ折り縫い。前身頃に当て布をミシンで止める。ひもを2度ミシンで止める。
----	---------------	--

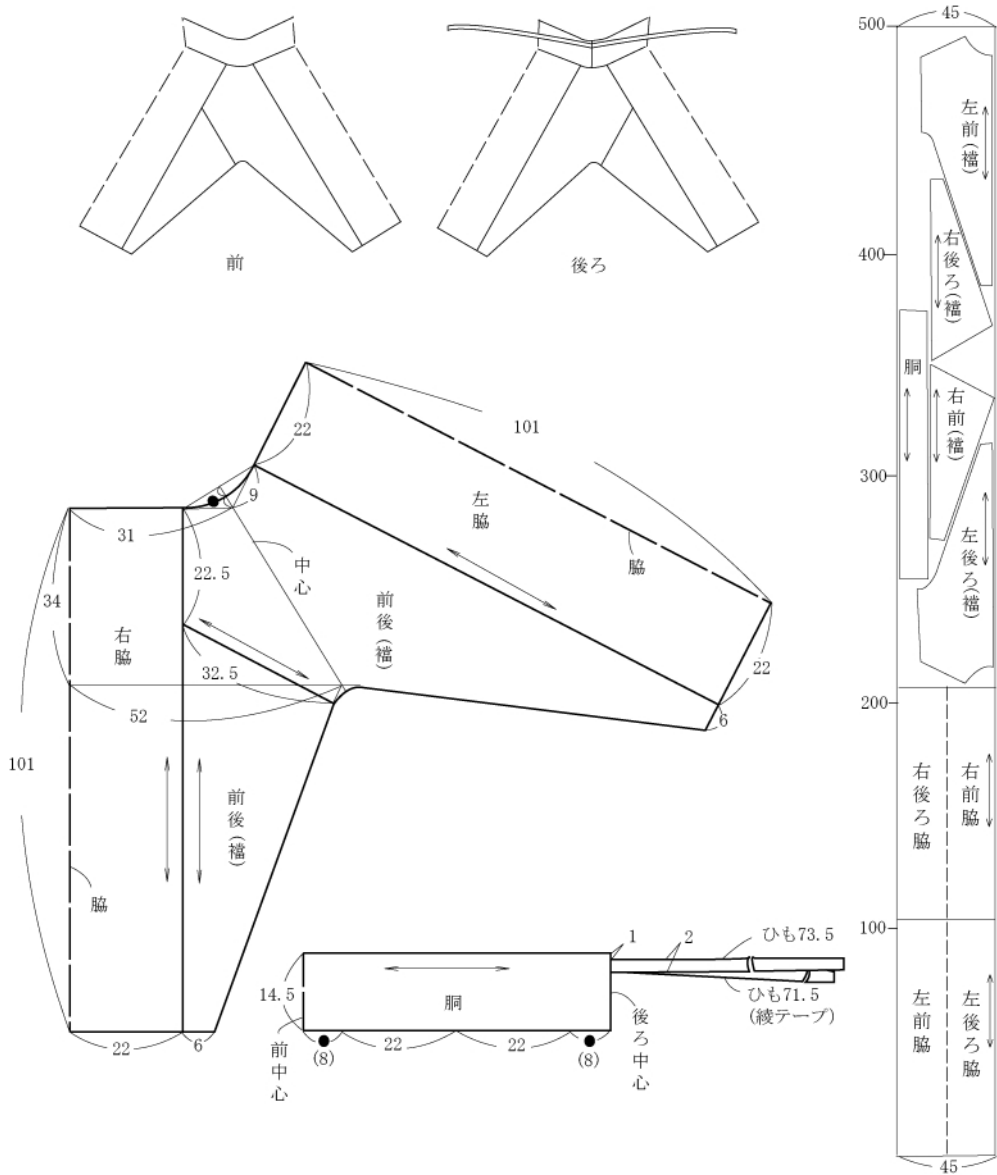


図6 韓国、パジの作図、裁ち合わせ図

表6 韓国、パジの縫製

B2	韓国 袴 パジ	<p>—ミシン縫い—</p> <ul style="list-style-type: none"> • 耳は端から0.3裁端は0.5折り折山から0.3の位置にミシン【織が粗くほつれ易い布地は滑脱が起き易い防止策として当て布をする布端を折って2枚にする事で縫い目を補強し滑脱を防ぐ】 • 前後の褶の縫い合せ=縫い代を0.5~0.6折り0.3の縫い代でミシン縫い縫い代割る • 脇布と褶の縫い合せ=中表に合せ0.3にミシン縫い縫い代割る • 股下縫い=股下をミシン縫い前布で後ろ布をくるみ2度ミシン縫い縫い代幅0.5 • 胴布縫い=後ろ中心折り伏せ縫い(左へ倒す) 胴布をパンツにつけミシン縫い胴布でパンツ縫い代をくるみ2度ミシン縫い縫い代幅0.5 • 裾=0.5, 1.1の三つ折りにしステッチ幅1でミシン縫い • ひもつけ=胴布後ろ中心に2幅の綾テープ(左73.5 右71.5 差2)を縫いつける
----	---------------	---

幅にミシン縫いされている。裁ち目側の縫い代を一折りしてミシン縫いすることで、ほつれ防止、縫い目補強、滑脱防止の役目を果たす。繊細で糸密度の少ない布地の縫い目には配慮すべきものがある。一般に織りが粗い布や麻布の縫製には滑脱防止テープ(伸度のある接着テープ)を縫い目線に張りミシンをかけ、縫い目を安定させる。縫い目の補強として、動作で力のかかる、肩から背にかけて、後ろ身頃脇下、紐付け位置に当て布が施されている。素材に適合する縫製方法で、かつ高い技術で仕上げられている。

縫製の詳細は表5に示す。

4) 資料B2 韓国; 袴・バジ (図6)

[形状]

反物の幅を最大限活用しゆとりが多い。左右の脇布はたて2つ折りして脚部をおおい、中心に大小の楔型の褶がはめこまれた構成になっている。股上の長い袴で腰高に着用し後ろ中心についた紐で縛る。裾は細帯か脚半の形をしたもので括って絞る。

[パターン, 裁ち合わせ, 縫製方法, 装飾技法]

裁ち合わせ図を図6に示す。右前後脇, 左前後脇, 前大褶, 前小褶, 後ろ大褶, 後ろ小褶, 胴の7パーツからなる。脇布は反物の幅をそのまま生かして縦半分たたみ脇縫い目は省いている。これは資料B2 インドのシャルワール(図4)と同じパターン構成である。作図起こし, 裁ち合わせは『韓国衣裳構成』⁸⁾を参考にした。縫製は上衣と同じで滑脱防止を考慮し, 耳を利用して3mmの縫い代でミシン縫いされている。裁ち端側は7mm折り2枚にし, 耳側は1枚の合計3枚でミシン縫いされる。透ける素材のため縫い代幅は極細く, 均一な幅で, すっきり仕上げられている。胴回りは120cmありフリーサイズである。縫製の詳細は表6に示す。

5) 資料C1 シリア; ドレス (図7-1, 7-2)

[形状]

シリアの女性用ドレスは資料C2のパンツとアンサンブルになっている。ドレス裾布, パンツ裾布に, タック縫いと刺繍の同じ装飾がり

ピートされている。裾に使用の別布は本体より厚地である。前身頃のタックは中心側3本, 脇側4本合計14本, 肩線から36cmの長さで, 短冊と長さ揃え縫いでのステッチ飾りは目を引く。衿はスタンドカラーで, ゆったりとした身頃とのバランスのいいドレスである。裾布の刺繍は細かなクロスステッチで可憐な小花が刺されている。タック分はつままれ折山にカラフルな糸でオヤレースが施されている。膨大な時間をかけて完成させたドレスであろうと推測される。

[パターン, 裁ち合わせ, 縫製方法, 装飾技法]

裁ち合わせ図を図7-1に示す。20パーツの構成からなるドレス。前後身頃中心側は布の幅いっぱいを使っており, 容易に布幅が計測できた。左脇身頃は前後続き, 右脇身頃は前後をそれぞれ分割することで, 一丈で脇身頃が配置でき, 布地の裁断での無駄を省く, 袖も同じ工夫がなされている。左袖は前後続きの1枚で, 右袖は後ろ袖1枚, 前袖2枚の計3パーツに分割することで, 布地の節約をしている。後ろ身頃はヨーク切り替えになっており, 裏ヨークは袖山の裏打ちも兼ねるよう左右4.5cm長く裁断する。前立て, 短冊, 見返し, 衿の細かい部分は布目を正確に通している。裾布は別布で身頃より厚地であるが, 布幅はどちらも80cm幅で, 一見すると同じ布地に見える。慎重な観察が要求される。使用量は80cm幅×500cm, 別布は80cm幅×120cmである。資料C1シリアのドレス, 資料C2シリアのシャルワールの裾布は同じ布である。縫製はミシンで縫っているのではと思うほど規則正しく均一な針目で, 細かく精緻な技術である。前身頃胸部のタック縫い, 短冊布を縫い付ける飾り縫いは丁寧で美しい。身頃裾のタックおよび袖のタック縫いはパターン展開での修正が必要である。裾布の刺繍は素晴らしく民族服のすごさを感じさせる一点である。縫製の詳細は表7に示す。

6) 資料C2 シリア; パンツ (図8)

[形状]

シリアの女性用パンツ, シャルワールは腰部

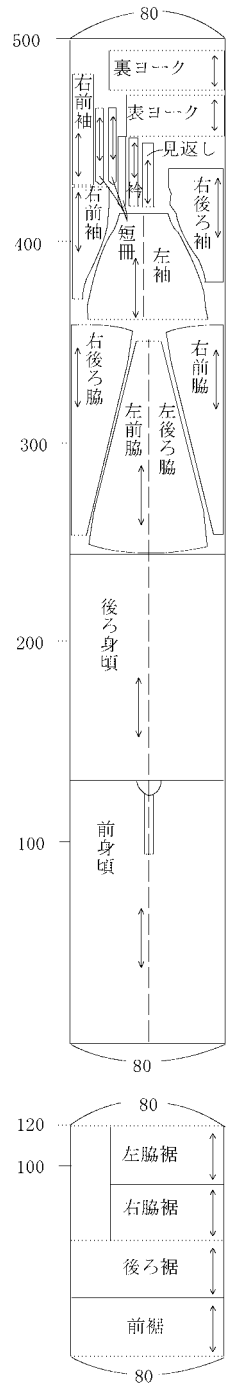
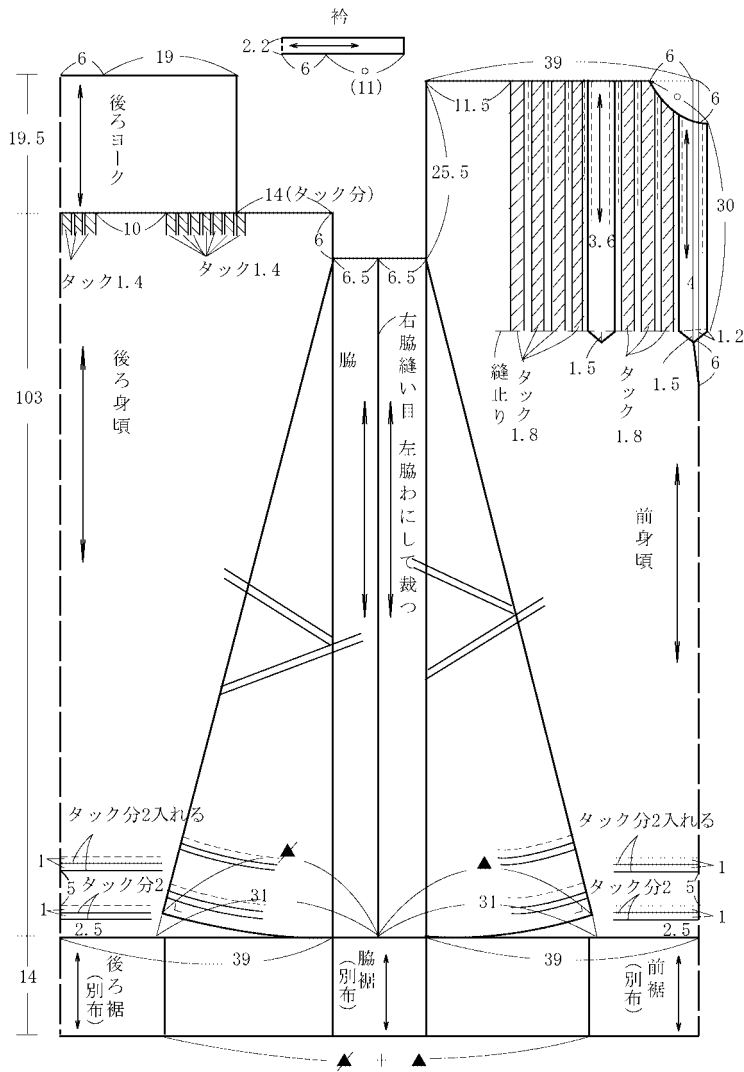
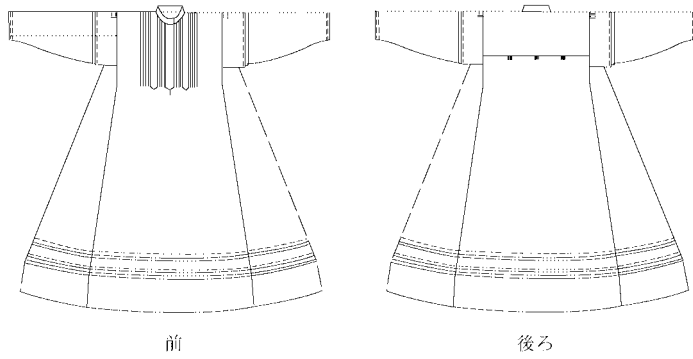
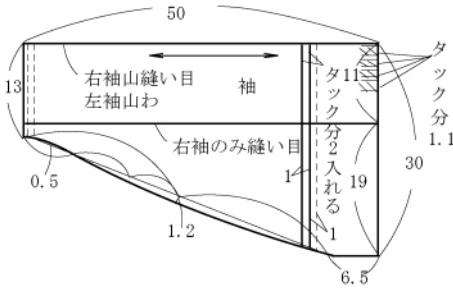


図 7-1 シリア, ドレスの作図, 裁ち合わせ図



袖のタックの入れ方

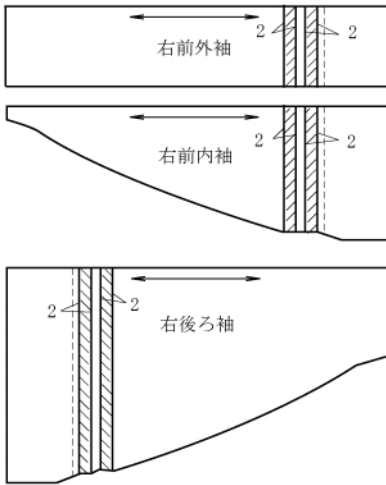


図 7-2 シリア、ドレスの袖作図、展開図

にギャザーが入りゆったりとし、脚部がややタイトで、裾に切り替え線があり別布を使用する。別布には、上衣のドレスと同じ繊細で緻密な刺繍とオヤレースがボーダー状に施されている。全て根気のいる手仕事である。資料 C1 のドレスと組み合わせて着用される。

[パターン、裁ち合わせ、縫製方法、装飾技法]

裁ち合わせ図を図 8 に示す。右前後脇、左前後脇、後ろ襷、前右襷、前左襷、右裾、左裾、右裾見返し、左裾見返しの 9 パーツからなる。前裾布を左右に分割することで前後の襷が一丈で配置でき、裁断での布の無駄が省ける。脇布は布幅いっぱい使った裁断になっており、縫い代端が耳になることではつれず丈夫に仕上がる。胴回り 180 cm ギャザー一分は 120 cm 前後になり腰回りのゆるみは多く日常の動作の殆どに対応できる。前後中心の裾布の形状はあぐら座りに適合してみえる。乳児の足 M 型の形状に似ていて機能性を考慮したパターンである。使用量は 74 cm 幅×170 cm、別布は 80 cm 幅×60 cm である。縫製は手縫いとは思えない細かさ正確さで縫われている。縫い代は片返しにして美しいステッチ飾りで押さえられている。裾布には別布が使われている。4 本のタック縫いと繊細な刺繍は、細い糸、細かい針目で装飾で、緻密な手仕事である。上部が破損しても裾の刺繍部分は大切にされ再度使用され

表 7 シリア、ドレスの縫製

C1	シリア ドレス	<p>—手縫い、手芸（オヤレース、刺繍）—</p> <ul style="list-style-type: none"> • 後ろ身頃作り＝タック分 1.4 を左に倒し表幅 0.3 で左 8 本中心 6 本右 7 本タックをたたみ 0.5 の位置に返し縫でタックを止める。ヨークを中表に合せ縫いつける。 • 前身頃作り＝前中心に切り込みをいれ前あき作り右上前前立てつけ左下前見返しつけタック分 1.8 を表タックでたたむ表面より細かい針目（24針/3 cm）の本返し縫いでひだを押えているそのテクニックの正確さ緻密さは見事まるでミシン縫いに見える 36 の長さで 14 本のタック縫い。タックの間に短冊をつける 2 本の本返し縫いのハンドステッチで飾り縫い【短冊つけは見返し布まで通して縫うことで補強の効果が上がり同時に見返し布がしっかり止まる。】 • 肩縫い＝前身頃と後ろヨークを並縫いで縫い合せ縫い代を後ろヨーク側に片返し表より • 脇布つけ、裾タック縫い＝右脇布脇縫い（左脇布縫い目なし）並縫い前後身頃に脇布を中表に合せ縫う裾に 4 本表タック縫い • 袖作り、袖つけ＝右袖山縫い目は袋縫い右前袖縫い目を並縫い縫い代を折り伏せ押え縫い袖山に 1.1 のタックを 8 本寄せ 1 の位置に本返し縫いしタックを固定する。袖口に見返しをつけ袖口にハンドステッチで 2 本押え縫い 1 本目 0.15 に本返し縫い 2 本目 0.6 に飾り縫い（表には 4 針出して 4 針隠す裏側は本返し縫い裏面の針目が出る）見返し端は折り表より本返し縫いで押える。袖下縫い縫い代は片返し（右袖は後ろ袖側左袖は前袖側に片返しされている）折伏せまつる表より本返し縫いで縫い代を押える。袖山に平行に表タックで 2 本タックを縫う。袖つけ縫い縫い代は身頃側に片返し折伏せまつる。 • 裏ヨークつけ＝接ぎを縫う後ろヨークに裏ヨークを外表に当て袷ぐり以外の周囲を折細かくまつる。表ヨークより袖縫い代裏ヨークまで通し 0.15 の位置を本返し縫いで押える • 衿つけ＝身頃に表衿をつける衿幅を整え周囲 0.15 を本返し縫い衿外りは 0.6 に 2 本目の飾り縫い • 裾布作り＝裾布は別布使用ドレス布より厚地を 2 つ折 2 枚重ねて裾端にカラフルな糸を使用し規則性を持った色配置でオヤレース 5 上にもオヤレース刺繍はベージュの糸で細かな針目で基布が隠れるくらいに刺してある前後裾および左右脇裾の合せて 4 枚裾布作りパンツの裾とアンサンブル【刺繍は針目の細かさから一針抜きの手作業であり緻密で根気のいる手仕事に目をみはる】 • 裾布つけ＝裾布 4 枚を接ぎ合せドレス裾に並縫いで止める縫い代は上側に片返し表より本返し縫いで押える
----	------------	--

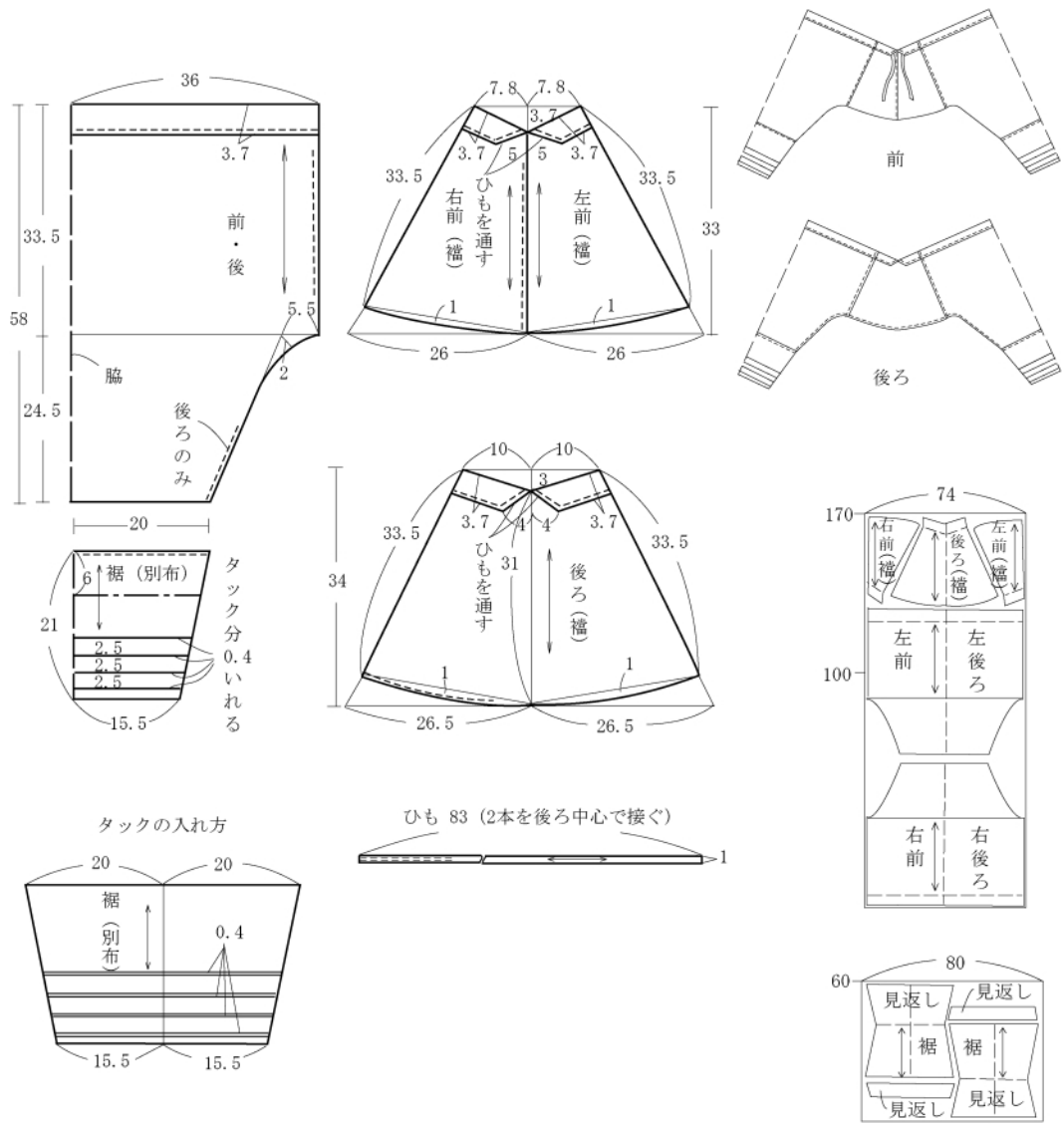


図8 シリア、シャルワールの作図、裁ち合わせ図

表8 シリア、シャルワールの縫製

C2	シリア パンツ シャルワール	<p>—手縫い、手芸（刺繍、オヤレース）—</p> <ul style="list-style-type: none"> 前後中心の襠をつける＝襠前中心を縫い右側に片返しハンドステッチで折山より0.15と0.5に飾り縫い。脇布に襠を縫い合せ脇側へ片返しハンドステッチで飾り縫い。【細かい針目で並縫い本返し縫い2本縫われ丈夫】 股下縫い＝前後を合せて並縫い縫い代を後ろ側に片返し折り伏せハンドステッチで0.2と0.5に2本飾り縫い ウエストひも通し縫い＝1次に3.7表側に折り返し折山より0.2を本返し縫いで止める。前後中心は予め内側に三角に折り折り代をまつり止めておく。 裾布作り＝裾布は別布でパンツ布より厚地を2つ折2枚重ねで布地をつまみ折山にカラフルなレース糸でオヤレースが4本施されオヤレースの間はパージュ色の糸でびっしり緻密で細かな刺繍（ドレスと合せ同じ刺繍とオヤレース）【裾布は厚地の布を使用2枚重ねで細かな刺繍をする事でより丈夫に仕立て上がる。】 裾布つけ＝パンツ裾と裾布を中表に合せ並縫い縫い代を裾布側に片返し表面から折山より0.2と0.5に2本飾り縫い。裾布の股下を縫い縫い代は片返し折り伏せてまつ。 裾布裏面に当て布つけ＝当て布は細かくたてまつり縫いで止める。【当て布をつける事で縫目が補強され丈夫】 ひも作り＝1幅×83長さ×2本後ろ中心で接ぎ完全折りの4枚布に赤糸で周囲並縫いのハンドステッチ。ひもを通す。

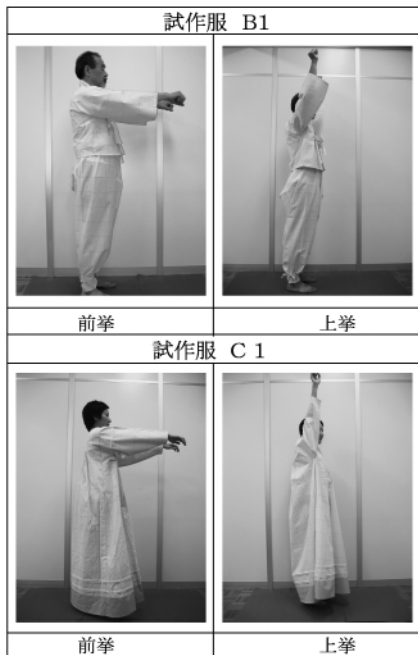


図9 上衣試作服着用による動作時の着装状態



図10 下衣試作服着用による動作時の着装状態

る。組み合わせのドレスの裾布にはパンツの3.5倍の長さで同じ刺繍とオヤレースが施され、裾の装飾がアンサンブルになり美意識の高さを感じさせる。縫製の詳細は表8に示す。

3 試作服による運動機能性の評価

試作服着用による各動作時の上衣着装状態を図9、下衣着装状態を図10に示す。

1) 試作服 B1 韓国；上衣、ジョグサム

袖ぐり、胸幅に拘束感は殆ど感じない。手の動きはスムーズで、日常着用の衣服より動きやすい。前拳での背幅、上拳での脇下の抵抗感は殆ど感じない。試作服の裾線は側拳、前拳での変化は見られないが、上拳では脇が少し持ち上がる。

2) 試作服 C1 シリア；ドレス

身頃のゆるみの多さ、袖ぐりの深さで拘束感はない。試作服の裾線は側拳、前拳での変化は見られないが、上拳では前から脇にかけかなり持ち上がる。袖ぐりの深さが影響していると考えられる。動作への抵抗は殆ど無い。

3) 試作服 A2 インド；下衣、シャルワール

そんきょ、片膝立て、あぐらの順に足を崩す。一連の動作に、腰回りでのたっぷりのゆとりと股上の深さで、どの座姿勢においても対応し、着心地が良い。

4) 試作服 B2 韓国；下衣、バジ

裾をひもで括り着るが、股上が深く、幅も十分あるため、一連の動作に抵抗は無く、あぐら姿勢にも対応する。

5) 試作服 C2 シリア；下衣シャルワール

ウエスト、ヒップでのゆとりは、十分あるが、足首にむけ裾布はスリムになる。しかし、扇型の襠は一連の動作による姿勢に合わせた形状をしており、どの座姿勢にも問題なく対応している。

以上の結果、上衣試作服2点ともに上肢側拳、前拳、上拳等の上肢運動は容易であった。下衣試作服3点はそんきょ、片膝立て、あぐらの下肢運動に抵抗無く対応した。資料5点とも日常の上肢・下肢運動に合わせたカッティングの工夫がなされていることが明らかとなった。

Ⅳ ま と め

文化学園服飾博物館所蔵の実物資料，アジア3カ国の民族服の調査研究より次の結果を得た。

①素材

インドの上衣及び下衣の素材は厚地の綿で上下の衣服重量は1514 g。韓国の上衣及び下衣の素材は麻で衣服重量は上下で410 g。シリアの上衣及び下衣の素材は、厚さの異なる木綿3種を使用，ドレスよりパンツが少し厚く裾布は更に厚い。衣服重量は上下で859 gであった。

②形状

資料の形態，構成，特徴について，パンツ3体は共通の形態，特徴を持っている。いずれも大きな裾が中心部に付けられ胴回りはゆったりとし裾にむけ細くなる。または着装で裾を縛る。裾絞り型である。裾の形状は以下の通りである。

資料 A2：台形裾（インド・シャルワール）

資料 B2：楔形裾（韓国・袴・バジ）

資料 C2：扇形裾（シリア・シャルワール）

パンツに組み合わされる上衣及びドレスは3点とも袖の形状は水平であり，パターン及び，機能性，デザイン性に於いて興味深い。

資料 B1：筒袖（韓国・ジョグサム）

資料 C1：タックスリーブ（シリア・ドレス）

③パターン・裁ち合わせ

資料 B1 以外は布幅いっぱいを使用されている部位があったため，布地の幅を容易に計測出来た。布幅は45 cm から80 cm に分布し，全く無駄のない直線裁ちでの裁ち合わせはインドのパンツ，シャルワールで，他の4点も無駄の少ない裁ち合わせであった。シリアのドレスは脇布，袖を分割することで，また下位のシャルワールは，前裾を分割することで無駄を減らす，地域独特のカッティング方法がみられた。

④縫製方法，装飾技法

インドの上衣及び下衣は太めの糸で並縫いをし，縫い代は折り伏せてまつられている。韓国の上衣及び下衣は3 mm の縫い代幅に揃えミシ

ン縫いされている。裁ち端は一折され2枚になり，滑脱防止の当て布代わりになる。袋縫いと滑脱防止縫いで仕上げられている。シリアの上衣及び下衣は細かな針目で並縫い，半返し縫い，本返し縫い，ミシンで縫ったような正確さ，緻密さで縫い合わされ，ハンドステッチで縫い代は押えられている。タックも押え縫いの要領で縫われている。技術の高さを感じる。装飾技法は刺繍，ファゴティング，オヤレース，タックが見られた。

⑤運動機能性の評価

調査資料は上衣2点共水平袖であるため側挙は容易である。韓国の上衣ジョグサムは袖ぐりの深い筒袖で，ゆるみが運動量をカバーしている。シリアのドレスも同じく，ゆるみ分量が機能量となっている。下衣3点共中心部は裾であり形状は異なるが運動量として機能的に働く。裾は厚みを作り，着脱や出し入れを容易にし，動きを楽にし，運動機能性を高める。またシルエットを美しく出し，装飾ともなる。さらには布地のいたむのを防ぐ補強のために用いられる。直線裁ちで平面構成された衣服の機能面を考えるうえで裾は必要不可欠であると思われる。形状は主に三角形，他に菱形，長方形，台形等がある。今回調査の下衣資料3点に台形，楔形，扇形の裾が見られた。

以上5資料の調査結果より，布幅いっぱいを使用し布地を無駄にしないパターンの工夫が全ての調査資料から確認出来た。資料6点の内4点が全て手縫い，2点が全てミシン縫いであった。並縫い，半返し縫い，本返し縫い，巻き縫い，折り伏せてまつる等手縫いのあらゆる技法が見られた。ミシン縫いでは滑脱防止の工夫がされた縫い代処理が見られ細く丈夫に仕上げられていた。

資料の殆どがたぶりのゆとりを持ち許容範囲の広いフリーサイズに出来ている。上衣及びドレスは水平袖で上肢は上げやすい。パンツは裾をつけることで運動量を確保し，機能性を高めデザイン効果も上げている。今回調査したシリアのドレス及びパンツ，シャルワールの縫

製、装飾には大きな感動を覚えた。このように素晴らしい民族服に触れることが出来たことを感謝し、民族服の研究を継続して行きたい。

本研究の調査にご指導ご協力下さいました文化化学園服飾博物館学芸室室長道明三保子教授、並びに学芸員吉村紅花氏に深く感謝申し上げます。また、被検者としてご協力下さいました木川正司氏、被検者及び資料作成でもご助力戴きました八巻香苗氏に厚く御礼申し上げます。

注

- 1) 松本敏子：世界の民族服—服飾におけるイスラムロード シャルワールの道—①、『衣生活研究12-1』p. 16 1985
- 2) 松本敏子：世界の民族服—服飾におけるイスラムロード シャルワールの道—②ネパールのイスラム的服飾文化について一、『衣生活研究12-2』pp. 14-19 1985
- 3) 松本敏子：世界の民族服—服飾におけるイスラムロード シャルワールの道—③インド北部のイスラム的服飾文化について一、『衣生活研究12-3・4』pp. 17-22 1985
- 4) 松本敏子：世界の民族服—服飾におけるイスラムロード シャルワールの道—④トルコ及びその周辺のシャルワールについて一、『衣生活研究12-6』pp. 28-32 1985
- 5) 松本敏子：世界の民族服—服飾におけるイスラムロード シャルワールの道—⑤コーカサス南部アルメニアのシャルワール一、『衣生活研究12-7』pp. 12-17 1985
- 6) 松本敏子：世界の民族服—服飾におけるイスラムロード シャルワールの道—⑥モンゴルのシャルワール一、『衣生活研究12-9・10』pp. 14-18 1986
- 7) 荒井やよい、田村照子：アジアの民族服に関する被服造形学的研究—文化化学園服飾博物館所蔵品の分析調査一、『文化女子大学紀要服装学・造形学研究第36集』2005

- 8) 朴 京子、林 純暎：『韓国衣裳構成』修学社、1980

参考文献

- 1) 梅棹忠夫監修、大丸弘責任編集：『世界旅行—民族の暮し1 着る飾る—』日本交通公社、1982
- 2) 小川安朗：『服飾変遷の原則』文化出版局、1981
- 3) 小川安朗：民族服に見られる脚衣—その時代・歴史的背景・風土・気候・生活様式などから一、『SOEN EYE 創刊号パンツ特集』pp. 20-29 1990
- 4) 小川安朗：『世界民族服飾集成』文化出版局 1991
- 5) 杉本正年、『韓国の服飾—服飾からみた日・韓比較文化論』文化出版局、1983
- 6) 田村照子、山本顕子：民族服の気候適応性に関する実験的研究—東南アジアの民族衣装を中心として一、『世界の伝統服飾』文化出版局、pp. 138-141 2001
- 7) 田村照子、道明三保子：『アジアの風土と服飾文化』日本放送出版協会、2004
- 8) 道明三保子、吉村紅花：民族服にみるパンツ、『SOEN EYE 25』pp. 46-55 1997
- 9) 中屋典子、高橋良子、横堀秀子、柴田早苗、小出 恵：民族服の裁ち合わせについて—デザインと布幅一、『世界の伝統服飾』文化出版局 pp. 132-137 2001
- 10) 朴 京子、柳 喜郷：『韓国服飾文化史』源流社、1983
- 11) 松本敏子：『足でたずねた世界の民族服1』関西衣生活研究会、1979
- 12) 松本敏子：『足でたずねた世界の民族服2』関西衣生活研究会、1985
- 13) 『世界気候表1961～1990』気候・降水量/気象庁編集、東京：日本気象協会
- 14) 『服飾辞典』文化出版局、1985
- 15) 田中千代：『新・田中千代服飾事典』同文書院、1991